

令和四年度 近畿納税貯蓄組合総連合会会長賞

「輝く税金」

大和高田市立片塩中学校 二年 半田 賢人

僕達の身の回りに様々な形で存在する「税金」は、人間が豊かに暮らすために必要不可欠なものです。しかし、いったいどれだけの人が、喜んで納税しているのでしょうか。おそらく大半の人は、なるべく払いたくないと考えているのではないのでしょうか。では、なぜ税金は必要なのか、その一例として、僕の祖母の話をしてみたいと思います。

祖母は、僕が小学校低学年の時に心臓と脳の手術をして障害者手帳を持つようになりました。もともと身体の弱かった祖母は、それから度々治療を受ける機会があり、僕が小学5年生の時に亡くなるまで何度も入院しました。入院、手術、通院と多くの医療費が必要で、身体だけでなくお金の心配もあったことでしょう。そんな時、障害者医療費助成制度が大きな助けになりました。これは、障害をもつ人が健康保険を用いて医療を受けた時の自己負担分を助成してくれる制度です。このおかげで、医療費の負担が軽減されて「少し気持ちが軽くなった。」と祖母や両親は言っていました。このように、病気や事故で苦しい思いをしてきた人達の心を軽くする役目も果たしているのです。

また、僕達学生が毎日の学校生活で様々なことを学ぶために教えて下さる先生方の給与も税金で払われています。市町村には収入の少ない所もあり、それが理由で義務教育を行うために必要な先生を確保できないことがないようにです。全国どこでも、ひとしく教育が受けられるように保障されているのです。

普段は意識していなくても、このように税金は僕達の生活のいたるところに関わっていて、僕達の生活を静かに力強く守ってくれているのです。もしも日本に税制度がなければ、僕達の今の生活は全く違うものになっていたことでしょう。形は違っても世界各国に存在する税制度。税の重さや使用法はそれぞれ違っても、世界中で税金が役立っているのは確かです。国の歴史は違っても、そこに住む人々の国民性は様々でも、同じ税制度が世界各国にある理由がわかった気がします。

母は、通関士をしていた祖父に「税」についてこう言われたそうです。「税金を払うのは義務だから仕方なく払うものではない。税金の使われ方や、どんな風に役立っているかを知ろうとする事が大切だよ。たくさんの税があるけど、どれか一つ欠けたら生活が変わってしまう。だから税は大切だとわかるね。」僕はこの話を聞いて、本当にその通りだと思いました。これまで「自分はまだ子供だから僕に関係する税は消費税くらいのもんだ。税なんて、あまり自分には関係ないな。」と思っていたことが、急に恥ずかしくなりました。

「税金」の仕組みと役割、その大切さを知ったうえで毎日の生活を振り返ると、生活のすみずみで輝く税が見えてきます。ただの義務ではなく、自分や自分の大切な人のための積み立てとして納税できる人になりたいです。